



風が冷たく、もうすぐ冬。時の流れが速く、1年が過ぎる。秋色に染まっていた木の葉が、風が吹くたびにクルクルと舞い散る。落ち葉をつかもうと、子ども達は手をかざし同じに舞う。相変わらず半袖半ズボンで元気いっぱい。

コロナ感染者数が急減。街は人が増えクリスマスイルミネーションに華やいている。

多くの国では、感染者が再び急増。グローバル化した世界。予断は許さないが、このまま収束し、来年は明るい年にと祈る。



行事予定表		
1	水	尿検査/焼き芋
2	木	交通安全教室(5歳児)/歯科検診
6	月	給食費引き落とし日(3歳児以上)
7	火	ピヨピヨひろば
9	木	カレーの日
13	月	読み聞かせ
14	火	リトミック
15	水	おべんとうデー/全園児集合写真(9:50)
17	金	クリスマス会
22	水	巡回相談
23	木	誕生会
24	金	避難訓練
28	火	保育納めの日(大掃除)

筑波山に登ったよ!

・紅葉も真っ盛り盛りの筑波山は、例年より一般客も多く、混雑していました。小さな身体の子も達が、岩をよじ登り友だちと励まし合いながら一歩一歩登りました。帰途も混雑して暗くなってから保育園に着きましたが、賞状と金がまを受け取り、どの子も誇らしげな表情でしたよ。



今月の予定の中から

●尿検査(1日)・歯科検診(2日)

・尿検査は、1日の朝の尿を提出して下さい。歯科検診も出来る限り当日受診をお願いします。詳細は、ほけん便りをご覧ください。

●カレーの日(9日)

・4・5歳児の野菜切りも慣れた手つきで行えるようになってきました。買い物係、金戸係、野菜切りなど5歳児は年間で全部の役割を経験します。

●読み聞かせ(13日)

・牛久市指導課の宮本先生と栗山先生の読み聞かせの時も、5歳児は姿勢を保ち聞けるようになってきました。

●おべんとうデー(15日)

・今月も子ども達の大好きなお弁当の準備をよろしく願います。

●クリスマス会(17日)

・今年もクリスマスのきらびやかな雰囲気を感じ、夢見る気持ちを大切にして欲しいですね。クリスマスソングを歌ったり、サンタさんに手紙を書いたり、クリスマス当日を楽しみにしていきます。

●誕生会(23日)

・職員がお話の役に成りきり演じます。

・どんな内容かは、当日までのお楽しみ!

●避難訓練(24日)

・毎月行うことの大切さを改めて感じます。



自分の命を守る方法を子どもたち自身が考え、行動出来るようになって欲しいと考えます。

●保育納めの日(28日)

・各保育室で今年を振り返り、日頃の感謝を込めて、各保育室を子どもと大掃除をします。

★お知らせ★

・先月から、非常勤の小林雪先生が産休に入りました。育休後に復帰予定です。

・年末・年始は12月29日～1月3日まで休園です。

・今後の行事「餅つき」「発表会」「保育参観」については後日、お知らせをします。

“自由と束縛”



11月に幼稚園(こども園)で作品展があった。子どもの絵は、自由奔放、やりたい放題で面白い。ピカソが「ようやく、子どものような絵が描けるようになった。ここまで来るのに、随分時間がかかったものだ」と言っている。上手にか、本物そっくりにかでなく、純粹無垢に、既成概念にとらわれず、感じたことを自由に、心のままに表現することは、大人にはできない。年齢が下がるほど、形にとらわれず、思い切り自由に描いている。色も形も自由、純良な生気と感覚を發揮している。しかし、年齢が上がるにつれ、このみずみずしい面白さが次第に整理され、型にはまり、面白味が薄れていく。▼ノーベル賞受賞者は、子どもの様に自由にやりたいことを、とことん追求していた。寝食を忘れて、研究に没頭していたら、成果が出ただけと言っている。遊びに、絵画に、自由に取り組んでいる子どもと同じだ、と思った。自分がやりたいと思うことを、誰が何と言おうと、やり通すところに、人間の仕事の本当の

原動力がある。子ども達が自由にやりたい事をやっている時が、正にそうである。他から見たら、どんなに大変なことかと思えることも、自分がやりたいことはやり通してしまおう。こういう「力」「心性」が、そのまま無垢に作動して出てくるのが、幼児の絵画である。これが教育や躾の枠組にはめられて、整えられ、同じに均質化されると同じ型になり、個性が薄められ、萎えいく。▼ノーベル賞受賞者だけでなく、世界で素晴らしい仕事や成果を上げた人を見ると、学校の成績は、必ずしも良いとは言えない。しかし、自分が興味・関心を持ったこと、やりたいと思っただけは、どんな困難にあっても、他から見て辛く、苦しいと思えることも、やり通してしまおう。「研究が面白くて、仕事面白くて、夢中になってやりました。」と言っている。IT企業の起業家も、廊下のソファーに寝ながら夢中で仕事を成功している。国や世界に貢献した政治家・社会活動家も同様である。▼受験競争が過剰で、教育に過重な負担がかかる近くの国からは、ノーベル賞受賞者は出ていない。これからは、ただただ暗記競争をして、不用な知識の量で評価が決まる教育を推し進める社会は、衰退していくのではないか。自分がやりたいことを、楽しくやり通していくことで、社会に花開くことになったら、社会的にも素晴らしい人生になる。同じことを暗唱させ、一律に縛って均一化した人間を作り、知識の量を競わせる社会と、一人一人の能力を自由に発揮して、やりたいことを思い切りやらせる社会では、未来の発展は違ってくる。

理事長 浅田 精利

